

一、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

マユ(小学校五年)のバーバ(祖母)は、自分の娘であるママのことも孫のマユのことも忘れてしまった。ホーム(介護施設)に入ったバーバは食事をとらなくなってしまう、ママが早起きして作ったお弁当にも口を閉じたまま、食べようとしない。ママは疲れて眠ってしまう、マユはバーバと二人の時間を過ごすこととなった。

「バーバ、おなかすかない? 私のキャラメル、食べる?」

ママの言い方が移って、おさない子供に話しかけるような口調になった。私は、箱からキャラメルを一つ取り出し、紙を剥いてバーバの口元を持って行こうとする。と、その時、バーバの口元がふわりと緩んで、かすかに「ふ」という音がした。

「ふ? ふって何? このキャラメルは、熱くないから、ふーふーはしなくていいんだよ」

バーバが何かに反応したことに慌ててしまい、早口になった。けれど、いざ私がキャラメルをバーバの口に入れようとすると、バーバはまたきゅつとくちびるを閉ざしてしまう。

「はい、あーん」

ママと同じ、甘ったるい声になった。すると今度は、バーバの右手がすーっと伸びて、窓の向こうを指差す。普段はちよくしゃ日光が眩しいので、薄い方のカーテンは閉めたままだ。

「お外、見たいの?」

しっかりとバーバの目を見て尋ねると、バーバはまた、「ふ」という音を漏らした。

じゃあ、ちょっとだけだよ、そう言っ、私はバーバの寝ているベッドを離れ、窓辺に移動する。それから、カーテンを開けた。その時、

「バーバ、もしかして、ふって富士山の、ふ?」

ふとひらめいたのだ。その瞬間、バーバの薄曇りのような色の奥まった瞳が、ピカッと輝いたように見えた。

あまりにも当たり前前にそんざいするので見慣れてしまい、忘れそうになっているけど、私達が暮らしている町からは、富士山がよく見える。昨日まで大雨が降っていたから、空気がいつもより澄んでいるのかもしれない。富士山は、ホームの窓から見える景色の中で、しっかりとした輪郭を現わしている。

「これでいい? バーバ、富士山が見たかったんだね」

カーテンを開けたせいで、ますます心地よい風が流れ込んでくる。ママは、「A」眠っているらしい。けれど、まだバーバは、「ふ、ふ」とかすかな息を出す。マユならわかってくれるでしょ、と訴えかけるような表情で。

「見えない? ほら、よく目をこらすと、向こうに、富士山、見えるでしょ」

「バーバは口元をはころばせ、くちびるをパクパクと動かしている。」

「ん? おなか空いた?」

そう言いかけた時、何かを思い出そうになった。バーバのこの表情を、いつかどこかで見たとある気がしたのだ。いつだっけ? バーバの、はにかむような柔らかな表情。

あつ、そうだ。何年前かに家族みんなで、かき氷を食べに行った時だ。並んで並んで、「C」噂のかき氷にありつけた時、バーバは、言ったのだ。ほーら、マユちゃん、みみたいでしょう、って。あ、そうか、そういうことか!!

(中略)

駐車場に停めてあった自転車にまたがり、かき氷店を目指した。大雑把に言うと、そこは、「D」家族三人で暮らしていた町の方角にある。道なら覚えていて。ただ、パパの車で通った時の記憶だから、交通量の多い幹線道路を走らなくてはいけないけど。

夏休みで連休のせいか、車がかなり渋滞している。私は、臨機応変に歩道と車道を交互に走った。ぐんぐんと富士山が迫ってくる。急がなきゃ、急がなきゃ、気がつく、猛スピードで走っていた。体が、風の一部になってしまっ、そうだった。

何かアクシデントが起きても不思議じゃなかったけど、何も起きずにかき氷の店まで辿り着く。でも、やっぱりここも、ものすごい人だかりだ。店の前に、長いぎょうれつができていて。どうしたら良いのだろう。このまま待っていたら、夜になってしまうかもしれない。私は、一心に店の奥へと突き進んだ。

(中略)

店の庭では、みんなうれしそうにかき氷を頬張っている。あの時も向日葵が満開だった。確かに数年前、私達はこのままだつまでも同じメンバーでいることに、何のうたがいてもたえず、ここでかき氷を口に含んだのだ。

「すみません」

勇気を振り絞り、窓の所で四角い氷をきかいで削っているおじさんに声をかけた。でも、周りが騒がしくて聞こえなかつ

たのか、むし<sup>g</sup>されてしまう。

「すみません！」

二度目は、声を強くした。ようやくおじさんが、できたての氷の山に透明なシロップをかけながら私の方を見てくれる。けれど、その先の言葉が繋がらない。私はみるみる泣きたくなった。ただ、バーバにかき氷を食べさせたいだけなのに。どうしてこんなに悲しくなってしまうのだろう。けれど、早く言え、と何かが私の背中を強い力で前に押しつけてくれたのだ。

「バーバが、いえ祖母が、もうすぐ死にそうなんです。それで最後に、このかき氷を食べたいって」

ぐっとくちびるを噛みしめ、涙の落下を食い止める。一瞬、音という音が世界から消えた。どうしてそんなことを口走ったのか、自分でもよくわからなかった。ママとの会話でも、【E】気をつけて避けて通ってきた、一文字の単語。それが口を吐いて出たことに、自分でも驚いてしまう。

「ちょっと待ってて」

子供の言葉など相手にしてくれないかと懸念していたのに、おじさんはぶっきらぼうにそう言うのと、またくるるときかいのレバーを回し始めた。目の前のカップに、白い氷の山ができていく。私は、ポケットから小銭を取り出した。かき氷一杯は買える。おじさんは、氷の小山の上から、透明なシロップをうやうやしくかけた。それを、クーラーボックスの中に入れてくれる。

「ありがとうございます！」

お金を払い、深々と頭を下げて、その場を立ち去った。

帰り道は、ますますスピードを上げて自転車を走らせる。クーラーボックスの中の小さな富士山が溶け出す前に、どうしてもバーバに届けなくてはならない。

「ただいま。バーバ、富士山、持ってきたよ」

ホームに戻ると、またカーテンが閉じていて、部屋全体が暗色に見える。クーラーボックスから、急いでかき氷を取り出した。もし全部溶けてしまっていたらと想像すると胸が潰れそうだったけれど、かき氷は、少しちぢんだように見えるだけで、きちんと富士山の形を留めている。私は、ママにかき氷を手渡した。

「はーなちゃん、あーん」

ママはそう言いながら、バーバの口元に木製のスプーンを差し出す。バーバのくちびるは、うっすらと開いている。けれど、スプーンが滑り込めるほどの隙間はない。

「マユが、一人で買いに行ってくれたんですよ」

ママの瞳から、つるんと一粒の涙が落ちる。やがてバーバは、何かを言いかけるように上下のくちびるを広げると、スプーンを受け入れた。

7 「おいしいでしょう？」

ママの声が湿っている。二度、三度と、バーバはスプーンの上のかき氷を吸い込んだ。そのたびに、目を閉じてうっとりとした表情を浮かべる。

私は確信する。バーバは今、数年前の夏の日、家族で行ったかき氷店のあの庭に帰っている。ごくろり、と喉が鳴って、富士山の一部が、バーバの体の奥に染み込んでいく。私は窓辺に移動して、カーテンをかきわけ外を見た。富士山が、オレンジ色に光っている。すると、マユ、とママが呼ぶ。

振り向くと、ほら、バーバがマユにも食べさせたって、と、私を手招いている。驚いたことに、バーバは自分で木のスプーンを持っている。

近づくと、私の口にかき氷を含ませてくれた。同じように、ママの口にもかき氷を含ませてくれる。ママは明らかに、私も年下の少女の顔に戻っていた。

8 (小川糸『バーバのかき氷』)

注 アクシデント … 予期せぬできごと。事故。

問1 — a hの部分<sup>9</sup>を漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

問2 【A】 【E】に入る最も適当なことを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。

A かつて イザット ウ やつと エ すっかり オ やつぱり

問3 — 1、「ママと同じ、甘ったるい声」とありますが、それはどのように話す声ですか。できるだけ文中のことを使って答えなさい。

問4 ― 2、「まだバーバは、『ふ、ふ』とかすかな息を出す」とありますが、Aマユはまだ、バーバがこの時どのようなことを伝えようとしているかと思っておりますか。また、Bバーバは実際には何を伝えようとしていたのですか。それぞれ答えなさい。

問5 に入る最も適当なことを文中からぬき出して答えなさい。

問6 ― 3、「何かアクシデントが起きても不思議じゃなかった」のはなぜですか。できるだけ文中のことは使って答えなさい。

問7 ― 4、「あの時」とはいつですか。できるだけ文中のことは使って答えなさい。

問8 ― 5、マユはなぜ悲しくなってしまうのですか。

問9 ― 6、かき氷屋のおじさんに、マユが「深々と」頭を下げたのはなぜですか。

問10 ― 7、「ママの声が湿っている」とありますが、ママが泣いているのはなぜですか。

問11 ― 8、ママが「私よりも年下の少女の顔」に戻ったのはなぜですか。

二、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

問1 — a、hの部分の漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

問2 — A、Eに入る最も適当なことばを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。

ア ただ イ すると ウ そこで エ あるいは オ ところが カ 要するに

問3 — 1、具体的にはどのような行動をするのですか。A 普通のチンパンジーと B 動物園のチンパンジーについて、できるだけ文中のことばを使って、それぞれ答えなさい。

問4 — 2、このときサンティーノは、小石を、A どうやって手に入れていましたか。また、B どういうところからほうつていましたか。できるだけ文中のことばを使って、それぞれ答えなさい。

問5 — 3、サンティーノが脅したくなる「人間ども」とは、具体的にどのような人々ですか。文中から十七字ぬき出して答えなさい。

問6 — 4、具体的にどのような行動を指してこう言っていますか。

問7 — 5、「物を隠す行為」について、筆者はどのように言っていますか。次の(A)(イ)に入ることをそれぞれ文中から三字ぬき出して答えなさい。

鳥や小型の哺乳類のなかには(A)にそれをやるものもいるが、サンティーノは(イ)にやっている。

問8 — 6、サンティーノはどうやってこの部分を見つけられているのですか。

問9 — 7、ここで言う「先読み」とはどういったことですか。文中から二十五字ぬき出して答えなさい。

三、次の各文の~~~~部分、どのことばにかかっていますか(修飾してありますか)。記号で答えなさい。

① こんな おもしろくて 楽しい ことは はじめてだ。

② ふだんから 努力を 続ける ことが 大切だ。

③ ようやく みんなが 待ち望んだ 春に なった。

④ どんなに 苦しんでも あの 子は 決して あきらめない。

⑤ むかし この 場所で たくさんの 焼き物が つくられた。



2026年度 国語 解答用紙 B日程

ここにシールを貼ってください↓

受験番号				
------	--	--	--	--

関西学院中学部 (2026年1月19日)

問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1	
						A	A	A	e	a
						B	B	B	f	b
								C		
								D	g	c
								E		
									h	d

一、解答は解答らんの中に、濃くはつきり記入すること。※句読点やその他の記号も一字と数えます。

問11	問10	問9	問8	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1	
				ア			B	A	A	e	a
									B	f	b
									C		
				イ					D	g	c
									E		
										h	d

すゝめ。

三、

二、

